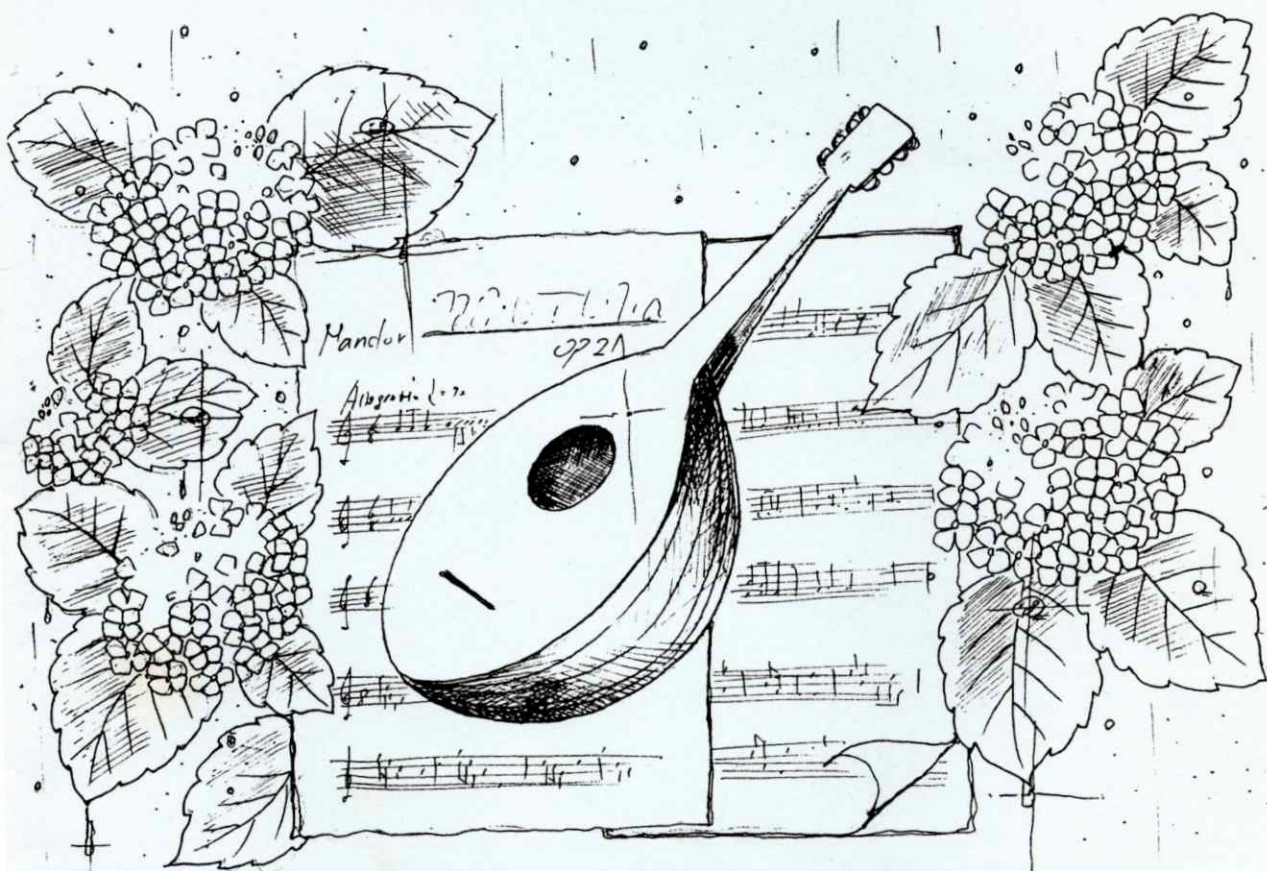


相模原マンドリン倶楽部

第13回

定期演奏会



1995年6月17日(土)

開場 1:30 P.M.

開演 2:00 P.M.

会場 相模原南市民ホール

(南合同庁舎内)

[プログラム]

I 部

指揮 小林 淳子

- 朝の歌 E. Elgar
編曲：木村 吉男
- 粉屋の踊り M. de Falla
編曲：飯塚 幹夫
- 火祭りの踊り M. de Falla
編曲：鈴木 静一
- 「威風堂々」行進曲第1番 E. Elgar
編曲：喜多 満鳥
- 北欧のスケッチ A. Amadei
- 第1楽章 遙かなる未知の国への旅 編曲：中野 二郎
- 第2楽章 懐郷のワルツ
- 第3楽章 ロシア舞曲

II 部

指揮 宮本 皓永

- 序曲「ミリタリア」 M. Maciocchi
- 組曲「白鳥の湖」より P. I. Tschikowsky
- ・ 情景 編曲：宮本 皓永
 - ・ 四羽の白鳥の踊り
 - ・ ハンガリー舞曲

「舞踊風組曲 第2番」作品21 久保田 孝

曲 目 解 説

粉屋の踊り

Manuel de Falla (1876~1946)

この曲は、アラルコンの小説「三角帽子」をもとにした同名のバレエ音楽の第2幕で演じられる民族音楽ファルーカである。1917年にマドリードで初演されたこのバレエ音楽で、作曲者ファリャは国際的に知られるようになった。

聖ヨハネ祭の夜、粉屋の家に集まった村人の前で美人の女房に勧められて、粉屋の亭主が上機嫌で自慢のファルーカを踊る様子が描かれている。

火祭りの踊り

Manuel de Falla (1876~1946)

バレエ音楽「恋は魔術師」は1915年にマドリードで初演された。13の部分から成り、この曲は山場となる8番目に演奏される。悪霊を追い払うために、ジプシー達が火をたいて踊っているこの曲は最も有名である。

名ピアニストのルービンシュタインは、自伝の中でファリャについて次のように書いている。「彼は特異な個性の持ち主で、普段でも修業中の僧侶のように見えた。常に黒い服に身を包み、禿げ上がった鋭い黒い目と濃い眉にはどこか憂いの陰があった。微笑さえも悲しげだった。」

「威風堂々」行進曲第1番

Edward Elgar (1857~1934)

エルガーは独学で作曲を学んだ英国の作曲家で、後期ロマン派的な重厚な作風を持っている。1~5番までであるこの管弦楽用行進曲は、そのタイトルをシェイクスピアの「オセロ」第3幕のオセロの台詞から取ったという。

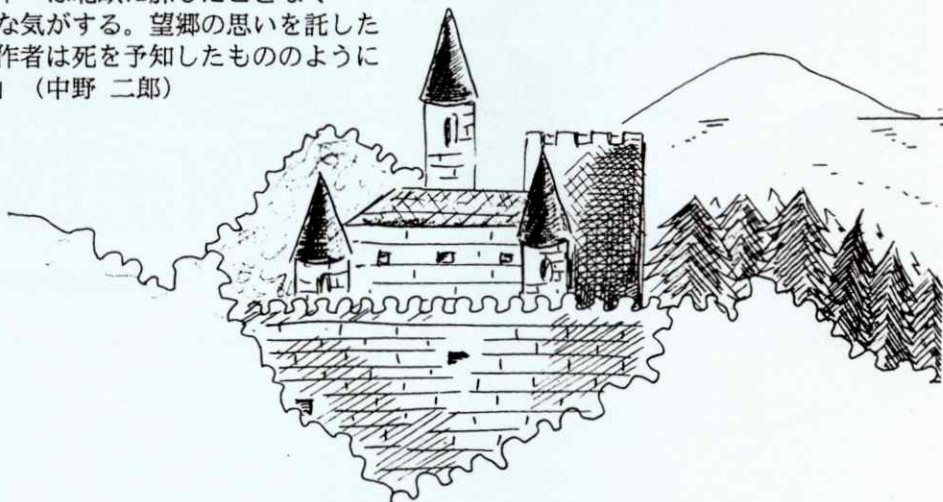
中間部の親しみやすい旋律は後年独立した歌曲にアレンジされ、国歌に次ぐ英国国民の愛唱歌となった。

北欧のスケッチ

Amedeo Amadei (1866~1935)

《Acquerelli Nordici Suite》は、はじめ「ノルウェイの水彩画」と訳されたが、マンドリンオーケストラ用に編曲された際「北欧のスケッチ」と改題された。

「作曲者アマデーは北欧に旅したことなくこの曲を書いた様な気がする。望郷の思いを託したこの作品は、既に作者は死を予知したもののようには私は考えられる。」（中野 二郎）



序曲「ミリタリア」

M. Maciocchi (1874-1955)

M. マチョッキはイタリアのローマで生まれ、長くフランスで活躍、その作品はどれもが親しみ易く、美しい旋律と豊かな表情を持つものが多い。この「ミリタリア」、わが国では昭和初期から各団体に、しばしば演奏されており、「美しき水車小屋の娘達」「セヴィラの碧空」「ミレナ」「麦祭り」等と共に代表的な作品とされている。しかし、この表題が、花の名、女性の名、地名、その他の固有名詞かは定かでない。

マンドラが静かに唄いだす序奏から、甘美なアンダンテ、軽快なアレグロ、そして壮大な終曲に至るまであきさせない。今回は、「ミリタリア」をイタリアの情熱的で美しい娘の名としている。その娘に想いを寄せ騒ぎかける若者。羞らいながらも次第に心を開いていく娘。やがて、おたがいの愛を受け止めあい、溢れんばかりの幸せを謳歌しつつドラマチックに曲を終える。
〔宮本皓永 記〕

組曲「白鳥の湖」より

P. I. Tschikowsky (1840-1893)

「眠りの森の美女」「くるみ割り人形」とならぶ、三大バレエ音楽のひとつである「白鳥の湖」。これを演奏会用として編まれた組曲「白鳥の湖」は全六曲(①情景Ⅰ②ワルツ③四羽の白鳥の踊り④情景Ⅱ⑤ハンガリー舞曲⑥情景Ⅲ)あり、今回は、そのうちの①、③、⑤を取り上げた。いずれも魅惑的な旋律、軽やかに、時には野性的に高まるリズムは聴くものを魅了する。
〔宮本皓永 記〕

「舞踊風組曲 第2番」作品21

久保田 孝(1942～)

本曲は、1983年12月6日上智大学ソフィアマンダリン第22回定期演奏会に於いて作曲者自身の指揮により初演された。変拍子を伴った舞曲を組曲型式により、独自の手法で幻想的に描き出し、マンドリンオーケストラのもつ響きの特性を極めた傑作として名高い。近年の邦人作品としては最多演奏回数(1986・'87年JMU調査)を誇り、ラジオでも放送されるなど広く愛聴されている。

作曲者 久保田 孝は、東京都出身。1965年三石精一氏に指揮法を師事。1968年ヨーロッパへ留学し、カールスルーエ音楽大学指揮科にてA.グリュンバー氏に師事。更に1972年ウーン音楽大学指揮科にてH.スワロフスキー氏に師事。1972・'73両年の夏「指揮者のためのマスターコース」にて最優秀の成績を修め、1974年に卒業し帰国。帰国後多くの交響楽団を指揮した。マンドリン界では度々NHK青少年音楽祭にて指揮を務め、数々の学生団体の音楽監督を務める一方、KMA(久保田音楽教室)並びにKUBOTA PHILOMANDOLINEN ORCHESTERを主宰し、後進の指導・育成、そして演奏活動にも力を注いでいる。

また、創作活動は多岐にわたり、近年では海外でも演奏され評価が高まっている。主な作品としては、初期の「序曲第2番」「組曲第1番」、留学中の「ソナタ イ短調」「舞踊風組曲第1番」、帰国後の大編成の「交響曲第1番」「ピアノとマンドリンオーケストラのための幻想曲」、そして新たなマンドリンオリジナルを目指した「舞踊風組曲第3番」「幻想曲第3番」などがあり、最近ではソプラノ独唱を取り入れた斬新な奇想曲「イタリア」、第9回国民文化祭委嘱作品「イセアーナ」を発表し、益々独創的な世界を拡げ、異彩を放っている。

〔マンドリン音楽研究家 石塚信彦 記〕

ごあいさつ

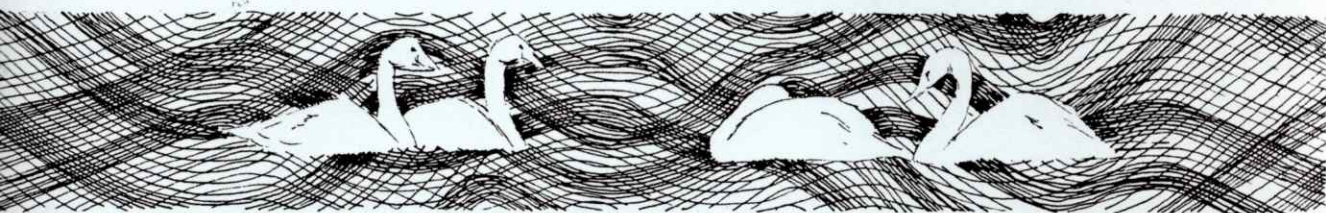
相模原マンドリン倶楽部 部長 原田 治

本日はご来場下さいまして大変有難うございます。

この1年間、私達は従来になく充実した活動を行って来ました。その1つは、多くのマンドリン合奏団との交流を深めることが出来たことです。昨年8月、マンドリン本邦渡来100年を記念して行われた「全日本マンドリンフェスティバル」に参加し、全国のマンドリン愛好家の皆さんと共に演奏することが出来ました。また、この4月には「神奈川マンドリンフェスティバル」にも初めて参加させて頂き、県内の仲間と共に演奏出来た事等は私達の視野を広め、今後の演奏活動に大きなプラスになるものと思われま

す。第2は地域の皆さんに身近に演奏を聞いて頂く活動です。昨年愛川町の皆さんのご協力で2回の演奏会を持つことが出来ました。身近に、親しみ易い曲を、小編成でも質の高い演奏でという課題で取り組んだこれらの活動は、機会があれば今後もぜひ取り組んでいきたいと思ひます。この間にも新しい仲間が続々と加わり、40名を超えるクラブとなりました。今後もお互いの絆を強め、より楽しいクラブを目指していきたいと思ひます。

本日の定期演奏会のために、部員一同一生懸命練習を重ねて来ました。どうかごゆっくりその成果をお聞き下さい。



《フェルマータ》

1975年4月に県立相模原青少年会館のマンドリン教室として発足し、1977年3月に相模原マンドリン倶楽部として第1回定期演奏会を開催しました。設立20年間でメンバーも大幅に変わりましたが、現在はマンドリンオリジナルとクラシックアレンジを中心に、幅広い曲目を演奏しています。90年代に入って部員数の増加は著しく、昨年からは相模原市を拠点とした活動に加えて県内外の演奏会にも参加しています。

♪部員プロフィール ～今回定演出演者37名～♪

| | | | | | | | | | | |
|-----|---------|----------|-----------|--------|-------|-------|-------|----------|-------|-----------------------------------|
| 性別 | 男性: 13 | 女性: 24 | (夫婦参加 3組) | | | | | | | |
| 年齢 | 20代: 2 | 30代: 6 | 40代: 20 | 50代: 9 | | | | | | |
| しごと | 会社員: 13 | 専業主婦: 10 | 兼業主婦: 9 | 公務員: 5 | | | | | | |
| 出身地 | 北海道: 1 | 中部: 13 | 関東: 14 | 近畿: 6 | 中国: 1 | 九州: 2 | | | | |
| すまい | 相模原市 7 | 厚木市 5 | 座間市 4 | 横浜市 3 | 川崎市 3 | 町田市 2 | 愛川町 2 | 栃木県足利市 2 | 杉並区 2 | 津久井町・綾瀬市・秦野市・伊勢原市・稲城市・調布市・文京区 各 1 |

- ・女性の多いにぎやかなクラブです。ブレイク・タイムにはお茶とお菓子でパワーアップ。
- ・団塊の世代を主流としているため、目下若返り策を……ドウシタラ？
- ・日本各地からさまざまな楽歴を持つ仲間が集まりました。
- ・練習場所は、相模原市内数カ所。場所確保のプロがいます。

出 演 者

| | | | | | |
|-------------|----------------|-----------------|----------------|----------------|-------|
| 指 揮 者 | 小林 淳子 | 宮本 皓永 | | | |
| 1st マンドリン | 窪田 成子 濱地すぎの | 山崎 了三 笛木 和美 | 綾部 文子 渡辺 礼子 | 金子 光代 | 野沢 孝広 |
| 2nd マンドリン | 戸田 節子 長澤 直子 | 藍澤 桃子 日置 和弘 | 石本 友子 | 金澤可代子 | 佐々木享子 |
| マンドラ・テノール | 福谷 隆治 | 池田百合子 | 井上 昌子 | 清水 哲夫 | 田辺 理枝 |
| マンド・セロ | 飯田 正男 宮本 皓永 | 市川久美子 | 小林 淳子 | 田辺 理枝 | 寺田美千代 |
| ギ タ ー | 宮本 紀子 加登 文子 | 池上 由子 長谷川やハコ | 石本 久博 原田 治 | 浦田 富男 森川 史子 | 大矢 利夫 |
| コントラバス | 金澤 慶了 | 鈴木 保彦 | 船田 早恵 | | |
| 打楽器(賛助) | 木暮奈保美 | 小野口保光 | 白川 友之 | | |
| 司 会 | 小澤 健二郎 | | | | |
| ステージ・マネージャー | 濱地 勝美 | | | | |
| 照 明 | 森本 正敏 | | | | |
| 美 術 | 飯田 純子 | | | | |
| | | | 印 刷 | (有)長谷印刷 | (厚木市) |

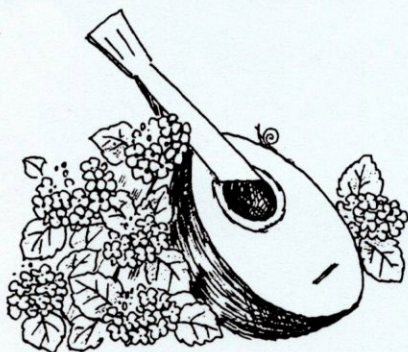
活動レポート

1994年(平成6年)

- 5月1日(日) 第12回定期演奏会(相模原南市民ホール)
- 8月28日(日) 日本マンドリン連盟関東支部主催「全日本マンドリンフェスティバル」(東京都中央区立中央会館)
- 9月25日(土) 文化の祭典(愛川町立春日台会館)
- 10月22~23日(土・日) 部内発表会に向けての合宿(厚木市立七沢自然教室)
- 10月29日(土) 第5回部内発表会(麻溝公民館)
- 12月3日(土) 樹人館コンサート(愛川町「樹人館」)

1995年(平成7年)

- 4月2日(日) 神奈川マンドリンフェスティバル(横浜市栄区栄公会堂)
- 5月27~28日(土・日) 第13回定演に向けての合宿(厚木市立七沢自然教室)



マンドリン合奏を楽しむ仲間を求めています。
(演奏経験者)

練習日 第2土曜・第3日曜 13:00~17:00
第4土曜 18:00~21:30

練習場所 県青少年会館・大野南公民館・大野北公民館

連絡先 飯田
原田